

【付録】

- ① 平成 26 年度 明星大学 全学入学前教育実施結果について
- ② 平成 27 年度「自立と体験 1」実施報告
- ③ 平成 27 年度「自立と体験 4」実施報告
- ④ 平成 26 年度「自立と体験 3」実施報告
- ⑤ 自校教育事業報告

① 平成 26 年度 明星大学 全学入学前教育実施結果について

明星大学

学長 大橋有弘 殿

全学入学前教育担当

副学長 高島 秀樹

明星教育センター

センター長 原田久志

平成 26 年度（平成 27 年度入学者対象）明星大学入学前教育の実施について（報告）

1. 全体総括

平成 26 年度（平成 27 年度入学者対象）の入学前教育プログラムは、前年度より次の点を大きく変更して実施した。

- 1) 通信教育を e ラーニング教材中心としたものへ変更し、費用の一部を受益者負担とした（1 人 10,000 円負担）
- 2) 「特別講座」の導入（本講座では初めて一般入試合格者も対象者に加えた）

また、通信教育に e ラーニング教材を導入したことによって、委託業者の変更を行った。それに伴い、事前準備、運営、他部署との調整等に時間を要したが、無事に新プログラムを終了することができた。実施したプログラムの詳細については以下の通りである。

2. 実施プログラムの概要

プログラム名	目的	対象	実施日	主な実施内容
スタートアップ講習	・年内合格者が入学までの期間を有効に使うためのサポートを行う	A O 入試合格入学予定者 推薦入試合格入学予定者	平成 26 年 11 月 16 日(日)、 12 月 14 日(日)、 12 月 21 日(日)	1) 以下の 4 プログラムを実施
① プレテスト	・通信教育のレベル分けを行う			1) 英語・国語(学内試験) 2) 数的処理・理系数学は自宅受験とする
② 大学生活スタート講座	・入学前の準備を確認する ・通信教育実施への動機づけ			1) 自己紹介・「大学生活準備度チェック」などのグループワーク(学科ごとの 4 人グループ) 2) 通信教育ガイダンス 3) 校歌練習
③ 学科交流会	・入学する学科の上級生や教員と接し大学生活のイメージをつくる			1) 学科ごとに内容を検討し、各教室に分かれて実施。
④ 保護者ガイダンス	・入学予定者の保護者に明星大学を理解し、入学までの準備への協力を求める	上記の入学予定者の保護者		1) 大学の歴史、現状、教育理念、教育方針と、入学前プログラムについての説明・DVD 上映 2) 在学生スピーチ

① 平成 26 年度 明星大学 全学入学前教育実施結果について

通信教育	<ul style="list-style-type: none"> ・大学での学習に必要な基礎学力の修得 ・学習習慣の獲得 	上記の入学予定者	平成 26 年 12 月～平成 27 年 2 月	※国語・論作文以外は、e ラーニングで実施。 【必修科目】 英語 数的処理・理系数学 国語・論作文(紙媒体) 【選択科目】 学科ごと 物理・化学・力学
フォローアップ講習	<ul style="list-style-type: none"> ・入学後の学習に支障が出ないようにフォローする ・リメディアル教室を知る 	通信教育の課題・修了テスト未実施科目が 1 つ以上あった入学予定者	平成 27 年 3 月 10 日(火)、3 月 11 日(水)	1) 大学生活においてルールを守ることを意味を考えさせ、大学生活についてのイメージを広げるためのグループワーク(4 人程度のグループ) 2) リメディアル教室での作文指導
スクーリング	<ul style="list-style-type: none"> ・通信教育をサポートする 	スタートアップ講習参加者	平成 27 年 2 月～3 月	1) 入学前からリメディアル教室の利用ができる。 2) 通信教育の課題についての質問やさらに勉強したい場合に活用するよう周知
特別講座	<ul style="list-style-type: none"> ・一般入試の入学予定者に対しても入学前教育の機会を提供する ・高校までの学びと大学での学びとの違いを理解する 	一般合格者(前期・中期) 年内入試合格者	平成 27 年 3 月 19 日(木)	1) 大学の授業体験(全学共通教育の教員) 2) 4 人グループでのワークショップ。自己紹介・自分が受けた授業を他のメンバーに報告。それをもとに大学での学びについてグループで考える

3. 実施結果

3-1. スタートアップ講習

スタートアップ講習の出席者は 3 日程で合計 883 名(対象者 1018 名、出席率 86.7%) (前年度: 対象者 935 名中出席者 832 名、出席率 89.0%) であった。プレテストにおけるアンケート集計(出席者 883 名中回答者 777 名)によると、入学予定者は英語について 66.7%が「難しい」と回答したが、国語については 54.8%が「易しい」と回答している。さらに 97.8%の入学予定者が「自分の今の学力を確認できた」と回答している。また学科交流会におけるアンケート集計によると、「よかった」「ややよかった」という評価が 96.3%であり、アンケートの自由記述の回答をみると、「どのような雰囲気です授業をするのかが少し分かった」、「どんな先生がいるか、同じ学科にどんな人があるか知ることができた」、「先輩達の経験を知り今後の自分のイメージができた」等、肯定的な意見が多かった。授業体験や在学生との関わりは、入学予定者にとって入学後の自分をイメージする良い機会になったのではないかとと思われる。

3-2. 通信教育

通信教育は e-ラーニングを取り入れて実施した。全体としての課題着手率(国語については e ラー

ニングを使用しなかったため課題提出率)は89.3%であった。前年度の課題提出率96.4%と比較すると7.1ポイントの低下となっている。今年度の科目別の課題着手率をみると、英語が95.4%だったのに対し、数的処理は83.8%に止まっている。英語と比較して数的処理の課題着手率が10ポイント以上低くなっており、前年度比ポイント低下の大きな要因と考えられる。スタートアップ講習で実施したブレテストの結果と、通信教育終了後に実施した修了テストの結果を比較すると、国語、英語、数的処理・理系数学のそれぞれの科目で、点数が伸びていた。なお、通信教育の総括については、委託業者による報告書(株式会社ワオコーポレーション)を、学部支援室にて参照されたい。

3-3. フォローアップ講習

フォローアップ講習は、通信教育の科目(国語・論作文、英語、数的処理・理系数学)について、一科目でも課題及び修了テストが未実施であった入学予定者(171名)を対象に、大学生生活におけるルールを守ることの意味を考える等を目的とし、3月10日・11日に実施した。参加者数は80名(前年度:対象者136名中参加者67名)だった。

3-4. スクーリング

大学生生活スタート講座において、入学前からリメディアル教室を活用できることを伝え、通信教育の課題に質問のある者やさらに学習したい者は、積極的に活用するように指導した。なお、スクーリングの参加者数は、延べ47名(前年度35名)であった。

3-5. 特別講座(テーマ:「大学で学ぶ」)

平成26年度(平成27年度入学対象)は、新たな取り組みとして、年内入試合格者だけでなく、これまで入学前教育の対象としてこなかった一般前期合格者及び一般中期合格者も含め対象者とした特別講座を3月19日(木)に実施した。結果371名(うち一般入試・センター利用入試合格者289名)が参加した。講座内容の目的は大学での学びと高等学校までの学び(学習)との違いを理解することとし、全学共通教育の教員による授業を4クラス(歴史、哲学、英語、文学)に分け実施した【実施教員:小林一岳(歴史)、村井則夫(哲学)、バーデン・タイラー(英語)、岡田恒雄(文学)、以上敬称略】。終了後、明星教育センターの教員によるワークショップを実施し、全学共通教育の教員による授業を受け、4つの授業の受講生がそれぞれ4名となるグループをつくり、自己紹介/昼食(グループごと)、自分が受けた授業についてシートを使ってまとめる、そのまとめシートを使って、自分の受けた授業をグループのメンバーに報告する、大学での学びについてグループで考える、について実施したアンケートの集計結果としては、97.6%の回答が、特別講座に対して「よかった」「ややよかった」と評価している。アンケートの集計結果については、学部支援室にて参照されたい。

4. 平成27年度(平成28年度入学予定者対象)実施に向けての課題と対応策

平成26年度(平成27年度入学対象)の実施結果から、次の3点の課題があげられる。

4-1. 通信教育の課題着手率の向上

通信教育の課題着手率(課題提出率)を上げることは、生徒の学習習慣付けという目的に沿ったもの

だと言える。課題着手率は、数的処理・理系数学で際立って低く、全体の課題着手率を上げるためにはこの数字を上げていくことが有効であろう。数的処理・理系数学はプレテストを自宅受験としており、それにより生徒が自主的に課題に着手しない状況ができてしまっている可能性も考えられることから、プレテストの実施科目について再度検討する。

また、e ラーニングでの学習の中で、課題未着手者にどのようなフォローを行っていくかという点についても、より有効な方法を検討していきたい。

4－2．通信教育の成果の再検討

入学前教育プログラムの中で、通信教育は大きな位置を占めている。通信教育の2つの目的、大学での学習に必要な基礎学力の修得、学習習慣の獲得に関して成果が上げられているかを再検討する。

具体的には、課題の難易度と分量、学習期間等についての検討、フォローアップ講習の周知の時期や方法など参加者数を増やす仕組みの検討、スクーリングの利用率を上げるための周知の方法等の検討が考えられる。たとえばリメディアル教室に通う意義の周知やリメディアル教室の講師と協同での講座の実施なども有効と考えられる。また、フォローアップ講習に不参加だった入学予定者に対して、課題に取り組みせる等の学習機会の提供も検討していきたい。

4－3．特別講座の実施方法等の再検討

今年度より新たに導入した特別講座は、参加者の評価は高かったため、引き続き実施していくことが妥当だと考えられる。平成 27 年度（平成 28 年度入学予定者対象）については、対象・内容・進め方等、今年度と同様の方法で良いかを検討する必要がある。特に、他のプログラムとの関連を考えながら、入学前教育プログラム全体の中での位置付けを検討していきたい。

以上

② 平成 27 年度「自立と体験 1」実施報告

平成 27 年 10 月 5 日

学長 大橋有弘 殿

平成 27 年度全学初年次教育「自立と体験 1」実施報告書

「自立と体験 1」担当副学長 高島 秀樹
明星教育センター長 原田 久志

1. はじめに

「自立と体験 1」は、今年度で 6 年目の開講となった。授業を展開していくなかで、担当教員・SAITA・受講生学生の意見を聴くなどしながら評価と改善を行ってきた結果、他大学ではみられない充実した授業が開講できるまでになった。初開講以来これまでの 5 年間は、授業の成果が「入学前の高校生にも周知され、学外からも注目される」ことに繋がった第 1 ステージと捉えることができる。これからの 5 年間で第 2 ステージとするならば、「『自立と体験 1』を受講したいので入学してきた」、という学生を増やすことができるように継続して努力を行っていく必要がある。本報告では、受講生に対して実施したアンケート調査（15 回目の授業で実施）の結果などをもとにして報告を行う。

(1) 出席率

今年度の出席率は過去 5 年間と比較して最も高い 85.5% となった（表 1）。また、平成 22 年以降の各年度の 1～15 回の出席率は、図 1 のとおりである。

表 1 「自立と体験 1」各年度の出席率

	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度	平成 24 年度	平成 23 年度	平成 22 年度
出席率	85.5%	85.2%	84.5%	85.1%	84.0%	82.7%

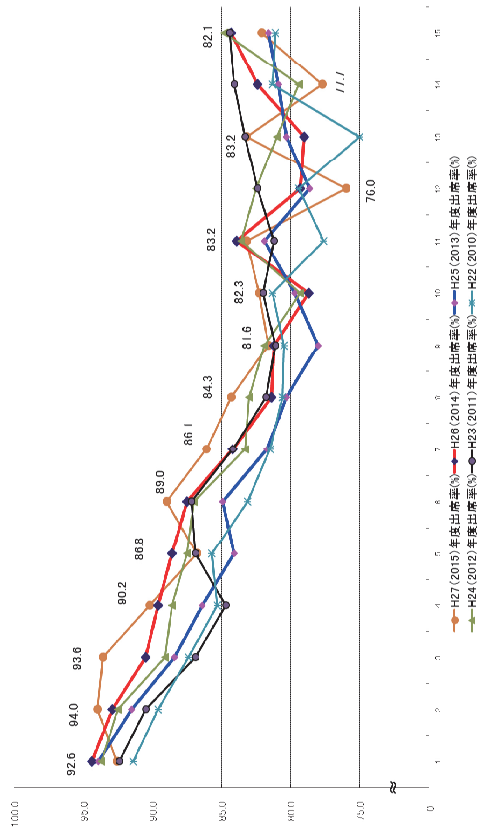


図 1 6 年間の各回における出席率

今年度の特徴は、第一節（1 回から 5 回）、第二節（6 回～11 回）の出席率が全体的に高かったことで、11 回のうち 7 回が 6 年間で最も高い出席率となった。第三節（12 回～15 回）は一回ごとに高くなり低くなったという結果になった。要因としては、通学時間帯の悪天候や交通機関の混乱、計画的に欠席する学生の増加などが考えられる。

② 学生の自己評価に関する質問

授業の学習効果を確認することを目的として、1 回目と 15 回目の授業の際に同一の質問項目からなる無記名アンケートを実施している。

学生の自己評価に関しては 4 項目の質問を設けている。例年、「卒業後にしたいことを考えている」（図 2）、「学生時代にすべきことを考えている」（図 3）、「自分の意見を筋道立てて話すことができる」（図 4）、「敬意・関心をもって他者の話を聴くことができる」（図 5）は、肯定的な回答をする学生が多い傾向があり、今年度も例年通りの結果となった。

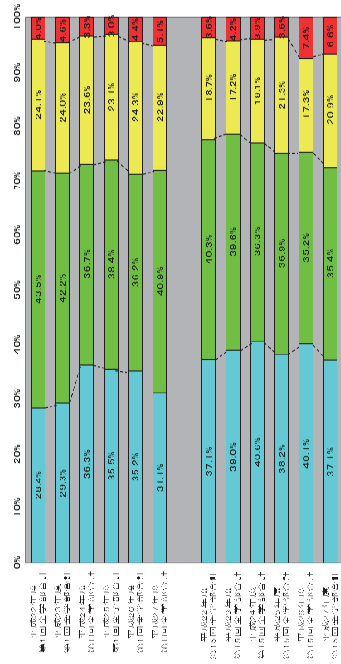


図 2 卒業後にしたいこと（進路）を考えていますか？

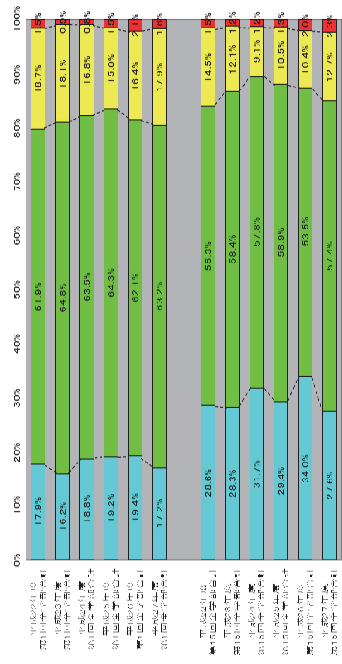


図 3 学生時代にすべきことを考えていますか？

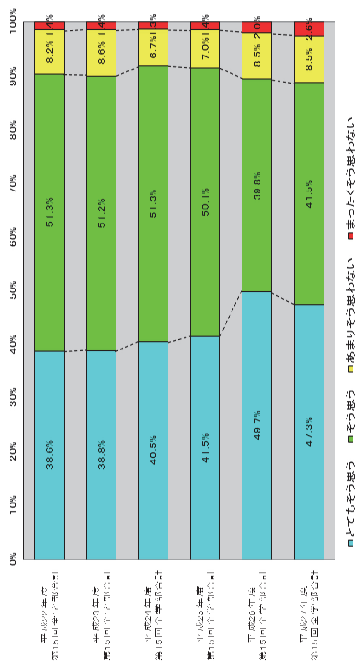


図 6 「少人数クラス」は役に立ちましたか？

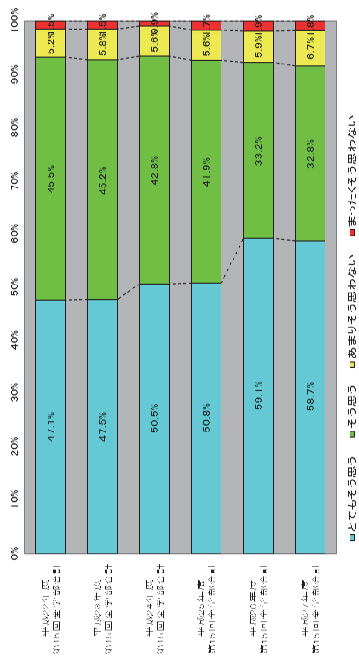


図 7 「他学部・他学科の学生との交流」は役に立ちましたか？

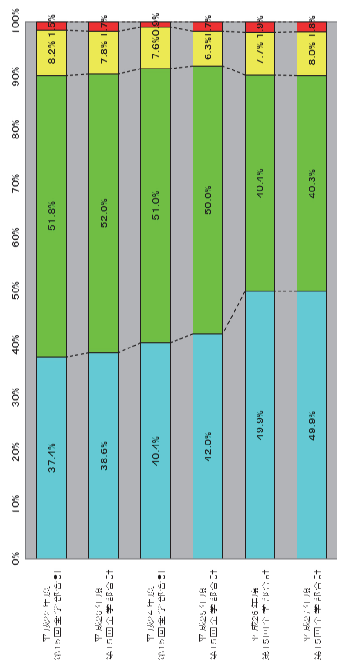


図 8 「グループでの学習活動」は役に立ちましたか？

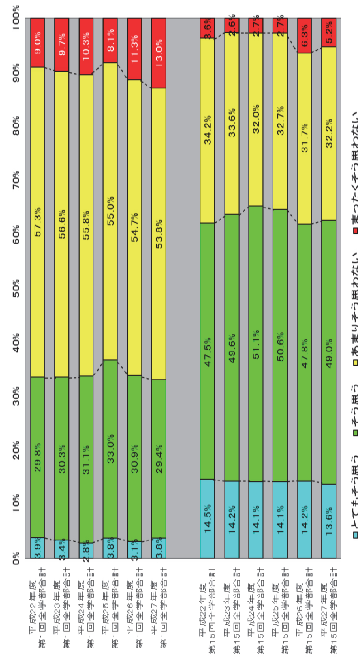


図 4 自分の意見を筋道立てて話すことができますか？

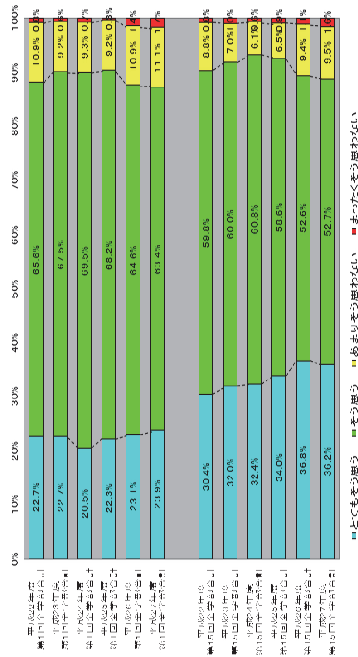


図 5 敬意・関心をもって他者の話を聴くことができますか？

(3) 授業の特徴に関する質問
授業の特徴に関しては 3 項目の質問を設けている。これらの 3 項目『「少人数クラス」で授業を行うこと』(図 6)、『「他学部・他学科の学生との交流」(図 7)「グループでの学習活動」(図 8)』に関する学生の評価は、いずれの項目でも 90 パーセント前後(「とてもそう思う」「そう思う」の合計)となっており、例年通り高い評価となっている。
「少人数クラス」で授業を行うことに対して苦手意識を持つ学生は多いが、本授業ではそういった傾向は確認されておらず、授業方法・授業内容等について高く評価されているように思われる。

(4) 「ために」になった授業

1～15 回の授業のうち、学生にとって「ために」になった授業」として印象に残っている授業について語っている。学生が「ために」になった」と回答している授業の平均回答数は、1 人当たり 4.9（昨年は 5.0）となった。全 15 回の授業回数のうち、約 3 分の 1 の授業が「ために」になった」と評価されていることは、「自立と体験 1」の授業計画の完成度の高さが評価されているのではないかと考えられる。（図 9）

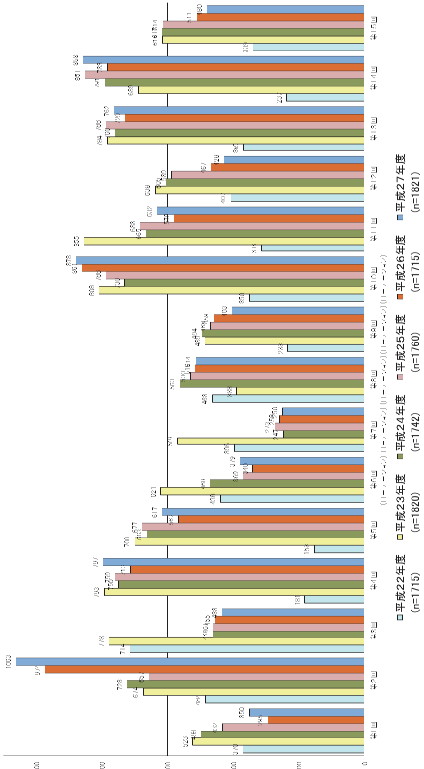


図 9 「ために」になった授業」に関する回答の経年比較

今年度の特徴として挙げられるのは、第一に「新しい環境で他者と出会う」（2 回目）の評価の高さであり、今年度は 58.4%（前年度：56.8%）となっている。その他、評価の高い順に「自分と相手の大切さを知る」（10 回目）が 48.2%（前年度：50.2%）、「これからの大学生活を描く」（14 回目）が 47.1%（前年度：45.7%）となっている。これらの授業については、アンケート調査の自由記述でも多くの学生が触れている内容であり、学生の関心の高さがうかがえる。

2. 昨年度の実施を踏まえての改善事項

(1) 単位修得率の向上

平成 22 年度以降の「自立と体験 1」の単位修得率は表 2 のとおりである（補習授業での単位修得を除く）。

開講年度	平成 27 年度	平成 26 年度	平成 25 年度	平成 24 年度	平成 23 年度	平成 22 年度
単位修得率	92.3%	91.3%	91.45%	91.0%	88.5%	89.9%

今年度の単位修得率（補習対象学生を除く）は 92.3 パーセントとなり、過去 5 年間と比較して最も高くなった。その要因としては、①授業内容の改善、②欠席学生への電話連絡の徹底（2 回連続欠席学生等）、③学部事務室・学生サポートセンター等との学生情報の共有によるサポート、④各クラスでの教員による学生への適切な対応、⑤ SATVA の適性の見極め、⑥ SATVA によるきめ細かな学生サポート、⑦明星教育センターを中心とする全学的なフォロー、などが挙げられる。

② 授業内容の更なる改善

今年度も「さらに学生にとって有益な授業」を目指し、各回の授業において内容の改善を図った。特に大きく改善した授業は下記の通りである。

授業名	改善点
「明星大学を知る」	学長・副学長の講義や先輩学生のスピーチを聴くこと、DVD を視聴することに加えて、アクティブラーニングの要素（講義の後、振り返りとして「ここまでの感想」と「自分が学ぶ大学を知ることの意味」を個人で記入した後、座席の近い人でペアまたはトリオを作り共有するワーク）を行う時間をとった。
「図書館にふれる」	図書館演習後、1 年生が自分で図書館を利用する際にも役立つように、参照できる資料 ①資料図書館についての説明、②OPAC についての説明）を増やした。

3. 次年度に向けて

今年度の「自立と体験 1」は、68 クラスで実施し、出席率は過去 5 年間と比較して最も高い 85.6%となった。授業の平均出席率を 15 回に渡って高いまま保持することは非常に困難なことである。授業担当教員による熱心な指導はもとより、大学生活へのスムーズな適応を他部署とも連携を図り進めてきた明星教育センター職員、およびご協力をいただいた職員の尽力によるものである。

また、「自立と体験 1」では、毎年プログラムの改善を重ね、学生が“学んだ”実感を深めることに取組んでおり、この点も高い出席率の保持に繋がっていると言えるだろう。

反面、今年度の授業を通じて次のような課題が明らかになった。次年度の授業に際して方策を検討していきたい。

① SATVA に関して

授業の際に、教員の意図と SATVA のサポートがずれやすくなる傾向がみられた。次年度は、さらに SATVA の採用・教育等において授業の主旨をしっかりと理解させ、授業担当教員との円滑な意思の疎通を図りつつ、環境の整備が必要である。

また、今年度から配置した SA コーチ（経験豊富な SA が新人 SA のコーチとなる役目）が欠席した SATVA の代役となる場合が多かったりするなど、十分に機能しなかった。SA コーチの活用に関して検討を行う。

② 学生の出席に関して

i) 授業の進捗とともに学生の出席率が低下していく問題、ii) 計画的に欠席する学生の問題、がある。それぞれの課題について方策を検討する。

③ 授業アンケートに関して

受講学生、SA/TA、授業担当教員を対象として、授業改善を目的とするアンケート調査を行っている。そこから明らかになった課題を次年度に活かしていきたい（アンケート結果に関しては、明星教育センター及び各学部支援室に配置）。

報告書制作：明星教育センター

榎本遼彦・太田昌宏・落合一泰・菅原良・鈴木浩子・高橋南海子・平塚大輔・南愛・百木英明

以上

③ 平成 27 年度「自立と体験 4」実施報告

平成 27 年 10 月 5 日

学長 大橋有弘 殿

平成 27 年度「自立と体験 4」実施報告書

「自立と体験 4」担当副学長 高島 秀樹
明星教育センター長 原田 久志

1. 概要

平成 27 年度「自立と体験 4」は、前期の授業を終了した。今年度は、昨年度と比べ履修者も増え、全体的に授業に対する意識やモチベーションの高い学生が多かった。授業プログラムを大学内で作成して 2 年目を迎え、主軸となるジョブインタビュアー演習では、学生がより主体的に課題に取り組みなど質の向上が見られた。運営面においては、明星教育センターの教員が「自立と体験 4」の全ての授業を担当した。また、クラス編成についても全クラスが学部学科横断での実施が可能となった。これにより一層明星大学独自のキャリア教育を目指す環境が整ったことも今年度の特徴として挙げられる。

以下、平成 27 年度「自立と体験 4」の実施について報告を行う。

2. 学生への周知

平成 27 年度は、新年度履修ガイダンスで明星教育センターの教員・職員が説明を行った。履修者増加に向けた取り組みとして、ガイダンスで説明する資料を統一化し、学生に分かりやすい告知資料を新たに作成、配布するなど対応を強化した。その結果、履修者は 187 名（昨年は 125 名）と前年度と比べて増加した。

3. 実施内容

(1) シラバス

「自立と体験 4」のシラバスは、下記の通りである。

【表 1】平成 27 年度「自立と体験 4」シラバス

回	授業名	内容
1	オリエンテーション	授業全体の概要・取り組み方
2	コミュニケーションの基本	コミュニケーションについて理解する 論理的に自分の意見を伝える
3	自己理解 1	自分の行動の元を知る 2WAY コミュニケーションを実践する
4	自己理解 2	自分の価値観を知る 将来を自分で描き表現する
5	ジョブインタビュー 1	他者から情報を得る方法を理解する ジョブインタビューの手順を考える
6	仕事理解 1	討論する力をつける 社企人の考え方を考える
7	仕事理解 2	企業と企業の関わり方を知る 社会の中で仕事の流れを理解する
8	仕事理解 3	チーム活動を体験する 組織で働くことを考える
9	ジョブインタビュー 2	前半の学びを意味づける プレゼンテーションの準備
10	ジョブインタビュー 3	前半の学びを意味づける プレゼンテーションの準備
11	自己理解 3	様々な人の仕事観を探る プレゼンテーションを体験する

12	自己表現	適性や能力の考え方を考える 自分の持ち味を考える
13	グループディスカッション 1	自分の持ち味を表現する 面接試験の基本を理解する
14	グループディスカッション 2	グループディスカッションの流れを知る グループディスカッションを体験する
15	総まとめ	グループディスカッションを実践する

(2) 教材・教案

教材は、受講ルールや授業の内容、目標設定シートが綴られたワークブックと授業回毎に必要なワークシートや資料を配布した。教材・教案ともに昨年度同様、明星教育センターの教員で話し合い、従来のものに更に改善、改良を重ねて作製した。

(3) クラス編成

3 年生前期科目として、今年度は、全クラス学部学科混合クラスとして計 10 クラスを開講した。昨年度同様に経済学科、造形芸術学科の 2 学科が学科科目に読み替える措置を行った。授業の開講曜日時限は表 2 の通りである。

【表 2】開講曜日時限 () はクラス数

開講曜日・時限		人数
月曜 3 限(2)、5 限(1)		63
火曜 5 限(1)		18
木曜 3 限(3)、5 限(1)		61
金曜 3 限(2)		45
全体 (10 クラス)		187

(4) 担当教員

担当教員は、明星教育センター特任・常勤教員 6 名で 10 クラスを担当した。また、教員間で授業内容の共有や振り返りなどを定期的に実施した。

(5) 授業の改善点

① 学びの連続性を意識した授業構成

15 回の授業を「導入」「自分や仕事を理解する」「就職力を実践する」と大きく 3 つに分け、内容の繋がりを意識して授業の順序を組み換えた。連続させた授業プログラムを組むことで、既習した内容を活かしながら学びが深まるよう進めていった。

② 基礎的な力を強化する仕組み

昨年度の課題の 1 つに「基礎的な力（話し合う力、考える力、表現する力）の不足」があった。それに対して基礎的な力を強化する仕組みを取り入れた。具体的には、授業内演習で用いる力について授業の冒頭部分でスキル練習を行った。その結果、全体的に演習の質が上がった。

③ ジョブインタビューでの主体的な学びを促進するための取り組み

今年度は、ジョブインタビューの主体的な学びの促進を図るために幾つかの取り組みを行った。まず、教員毎にジョブインタビューを通して身に付けて欲しい力など、ジョブインタビューの意義を丁寧に説明し、準備段階から働きかけた。また、振り返りでは、自分自身がジョブインタビューで取り組んだ行動のサイクル（計画→準備→実施→発表）を客観的に振り返ることができるシートを活用した。これにより主体的に動くことの重要性を意識付けていった。

5. アンケート結果

(1) 授業評価

授業へ参加して良かった、やや良かったと肯定的に回答した学生が99%と例年通り評価は高かった。回答理由では、自分について理解が深まったと回答した学生が最も多い。また、今年度は全てが混 Classroom だったこともあり、他学部との交流に対する意見も多く見られた。具体的には、「学部を超えた価値観やモノの見方を知ることができた」など互いの就職意識や考えに影響を及ぼしていたことが推察できる。

学生の授業への取り組み（積極性）については、76%が積極的に取り組めたと回答している。アンケートからは、「1 回 1 回の授業で必ず新しい発見や気づきを得ることを目標としていた」「授業の内容について、自分から関わっていくように意識して行動した」といった記述があった。

(2) キャリア意識、仕事・職業意識

生き方を考えるきっかけとなったと肯定的に回答した学生は 90%であった。自分が社会に出て働き、貢献するイメージについては、85%の学生が、イメージが持てたと回答し、昨年度と比べて 11 ポイント高かった。また、社会に出て働くことの中に楽しさを見つけていることができたかについては、81%がそう思うと肯定的に回答している。様々な仕事について理解が深まったと回答した学生は、81%で昨年度と比べて 10 ポイント低かった。

(3) 自立意識、自己理解

自分で考え行動し、判断することの大切さについて、肯定的に答えた学生が 98%であった。自分にとつてのやりがいや働く意義がはきりしきたかについては、88%の学生がそう思うと回答している。自分自身について新たな発見があったと答えた学生は、90%だった。いずれの項目も昨年度より肯定的な回答が多かったことから、授業を通して働くことへの意識の醸成に繋がったものと考えられる。

(4) その他

「自立と体験 4」を受講して伸びたと思うスキルについての質問では、聴く力とグループディスカッションが高かった。自由記述欄の中でも、最も印象に残った授業としてジョブインタビューとグループディスカッションに対する回答が多く挙がっている。どちらも授業で学んだことを実践として活かした経験があったことがスキルとして伸びたという意識に繋がったと思われる。

卒業後の進路は、イメージできていると回答した学生が 60%と昨年度と比べて 26 ポイント高かった。今年度は受講当初から就職活動に対して積極的な学生も多かったため、授業の効果によるものは分からない。インターンシップについては、参加したいと思う学生が 81%であった。

受講のきっかけについては、就職活動のために何かしたかったと回答した学生が 22%と最も高く、次に自立と体験 3 を受講したからと回答した学生が 19%であった。

6. 学習上の成果

「自立と体験 4」では、明星大学の体系的キャリア教育の最終段階として、具体的な自らの将来像、仕事、就職について考える力と意欲を身に付けることを到達目標としている。

4. 実施結果

(1) 履修者数

平成 27 年度の履修者数は、187 名であった。昨年度と比べて 1.5 倍に増加した。学部学科別の履修者数は表 3 の通りである。

【表 3】学部学科別履修者数と単位修得者数

学部学科名	平成 27 年		平成 28 年	
	履修者数	単位修得者数	履修者数	単位修得者数
経済学部経済学科	47	40	35	35
造形芸術学部造形芸術学科	39	31	44	36
情報学部情報学科	10	6	6	4
人文学部国際コミュニケーション学科	26	21	5	3
人文学部人間社会学科	8	6	6	3
人文学部日本文化学科	5	4	2	2
人文学部福祉実践学科	1	1	0	0
人文学部心理学科	7	4	0	0
総 計		187	147	123

(2) 出席率*

出席率の平均は 75.9%だった。昨年度（82.5%）と比較すると 6.6 ポイント下がった。最も高かったのは、第 2 回目の 87.4%、最も低かったのは第 15 回の 57.9%であった。授業回毎の出席率は表 4 の通りである。

【表 4】「自立と体験 4」出席率

授業回数	出席率 (全体)	平成 28 年 出席率 (全体)
第 1 回	83.1	88.7
第 2 回	87.4	88.7
第 3 回	79.8	88.1
第 4 回	79.8	80.7
第 5 回	76.0	86.0

*履修登録者 187 名のうち、授業に 1 度も出席していない学生が 4 名いた。
出席率と単位修得率は履修者 187 名からその 4 名をのぞいた 183 名で計算している。

(3) 単位修得率*

平成 27 年度の単位修得者は、147 名で単位修得率は 80%だった。昨年度（86.6%）と比べて 6.6 ポイント下がった。単位修得率と出席率共に、昨年度と比べてポイントが低かったことから、その要因を探ると後半の授業の第 14 回と 15 回の出席者が大きく減少していた。この回は、今まで積み上げてきた意識やスキルを実践しながら振り返り、まとめていく部分であった。学生によってはジョブインタビュー演習が終了した段階で、個々の課題が達成できたと認識し、欠席した可能性も考えられる。全体の出席率は低かったが、単位修得者の出席率を抜き出してみると 87%であった。このことから単位修得が、授業に継続して出席する意欲に関連する可能性も考えられる。

授業回数	出席率 (全体)	平成 28 年 出席率 (全体)
第 11 回	74.9	81.2
第 12 回	75.4	75.7
第 13 回	72.1	79.2
第 14 回	66.7	80.0
第 15 回	57.9	80.2
出席率平均	75.9%	82.5%

以下、今年度の学習上の成果について述べてたい。

(1) 自己理解の深まり

今年度の授業では、全 15 回の中で自己理解と繋げて、さらにそこから仕事や働くことについて考える機会を多く設けた。具体的には、社会人の考え方をビデオで観て、やりがいについて討論する場やチーム活動演習後に「自分の特徴を理解した上であなたが組織で働く上で大切にしたいこと」についてレポートを書くなどである。こうした取り組みから、授業の話し合いや課題の中で、やりがいや何を大切にしながら働きたいかについて自分の言葉で表現できる学生が多く見られた。

(2) 授業への積極的な取り組み意欲と態度の向上

受講当初から就職活動に対して意欲が高い学生が多かったが、さらに意欲、態度が高まるよう、授業での学びがどのような自分の将来に役立っていくか説明するなど授業プロセスの中で学生に働きかけていった。その結果、ジョブインタビュアーでは、どうしたら希望する業界・職種の社会人にインタビューができるかを知り合いや教員に質問するなど周囲を巻き込みながら意欲的に取り組む学生も多く見られた。また、授業冒頭の目標設定の場面では、自らが動くことを目標にしていた学生も多く、回を追うごとに主体的に取り組む姿勢や態度が高まっていた。

7. 次年度の課題

(1) 授業に最後まで出席する意識を高める取り組み

今年度は、単位修得率と出席率が昨年度と比べて 6.6 ポイント下がった。その要因については、前述の通りである。学生が最後まで授業に臨み、単位修得を目指すことができるよう教員からの働きかけも含めて、今後どのような方策が考えられるか検討したい。

(2) 仕事理解を深める取り組み

ジョブインタビュアーを通して、働くことの意識は高まったものの、前述のアンケート結果では、「様々な仕事について理解が深まった」と回答した学生は、昨年度と比べ 10 ポイント低かった。そのため、仕事理解を深める取り組みとして①授業内で仕事理解に関する内容を充実させる②自ら調べる意識を高める③自ら調べるための情報収集の方法を理解することを次年度に向けて検討したい。

(3) 具体的なアクションプランを策定する取り組み

授業を終えて、就職活動に向けて何かが行動に移そうとする意識は見られたが、具体的な就職活動に向けてのアクションプラン策定については、個人差が見られた。学生によっては、就職活動のスケジュール感や具体的な取り組みなどがイメージできない様子であった。授業終了後、学生をスミーズにキャリアセンターへ接続できるよう、行事などの告知を徹底するとともに授業とキャリアセンター実施講座との連携強化を図っていききたい。

報告書制作：明星教育センター 榎本達彦・太田昌宏・落合一泰・菅原良・鈴木浩子
高橋南海子・平塚大輔・南愛・百木英明

以 上

④ 平成 26 年度「自立と体験 3」実施報告

2015 年 3 月 9 日

学長 大橋有弘 殿

2014 年（平成 26）度「自立と体験 3」実施報告書

「自立と体験 3」担当副学長 高島 秀樹
 明星教育センター長 原田 久志

1. 概要

「自立と体験 3」は開講 3 年目となり、明星教育センター独自で授業企画・運営等を行って 2 年目となった。授業の実施も委託業者に委託せず、全て明星教育センターの教員と兼任講師で行った。授業内容は、問題解決演習を中心にしたものになっており、問題解決演習の過程で、社会人基礎力だけでなく問題解決技法や表現技法を身につける。

授業全体としては、昨年度と同様に受講学生の評価は非常に高いものとなっている。ただ、これは今年度の大きな課題でもあるが、履修学生数が減少している。以下、2014 年（平成 26）度「自立と体験 3」の実施報告をする。

2. 履修学生増加対策

「自立と体験 3」の履修者の増加は 2013 年（平成 25）度の次年度検討事項のひとつであった。2014（平成 26）年 2 月に各学部支援室に連絡をし、「自立と体験 3」の授業内容告知のためのチラシを配布、各学科の履修ガイダンスで説明する時間をリクエストした。その結果、全学部学科でチラシの配布をし、経済学科を除く全学科に対して履修ガイダンスで授業内容の説明を行った。

ただし、経済学部では独自に 1 月の授業内で、5 分程度の説明時間をいただき、明星教育センター教員が授業内容の説明をした。

また、4 月時点での履修者が少なかったもので、「自立と体験 3」の履修をうながすポスターとチラシを配付した。

3. 授業内容

1) シラバス

「自立と体験 3」のシラバスは表 1 の通りである。

【表 1】2014（平成 26）年度「自立と体験 3」シラバス

回	授業名	内容
1	オリエンテーション	授業全体の概要・取り組み方
2	チーム活動技法	チームワークを理解する
3	表現技法 1	自分の意見を述べる
4	表現技法 2	話し合って結論を出す
5	問題解決技法 1	問題解決を体験する
6	問題解決技法 2	問題解決のプロセスを学ぶ
7	表現技法 3	社会的な問題を話し合う

8	問題解決演習 基礎 1	現状の理解・原因の特定
9	問題解決演習 基礎 2	解決策の構想
10	問題解決演習 基礎 3	基礎の振り返り・発展の準備
11	問題解決演習 発展 1	現状の理解・原因の特定
12	問題解決演習 発展 2	解決策の構想
13	問題解決演習 発展 3	解決策のプレゼンテーション
14	キャリアデザイン	自分の持ち味を探る
15	総まとめ	今後の行動を考える

2) 授業内容の改善点

2013（平成 25）年度「自立と体験 3」の課題を受けて、下記の点を改善した。

①「自立と体験 1」からの学びの継続を意識させるために、「一問一答インタビュー」などの手法を用いて授業を行う。

②授業に対する興味を高め履修し続ける意欲を持たせるために授業内容を工夫する。

- ・初回に表現技法を取り上げ、3 回以降の授業の予告とする。
- ・チーム活動技法の演習（ペーパータワー演習）を 2 回に実施し、授業への興味を持たせる。

③振り返りを重視するために、全体に時間配分に余裕を持たせる。

④問題解決演習に、個人の問題、自分たちで選んだ社会性のある問題を取り上げ、受講者にとって、当事者としての意識を持ちやすいものとする。

3) 教材・教案

①教材

ワークブック；授業の説明と毎回のルーティン教材の冊子

ワークシート；「論理の樹」、「問題解決演習（基礎）ワークシート」「マッピングシート」など、学生の基本的なスキルを高め、思考を進めやすくするためのシートを工夫し、作成した

説明シート；「キャリアデザインの考え方」「プレゼンテーションの基本」等を用い、知識レベルでの向上も図った。

パワーポイント；特に問題解決の手法・手順と意味についての図はほぼ毎回のシートに挿入し、学生がそれらの手法や手順、スキルを習得しやすいように工夫した。

②教案

今年度は、明星教育センターの教員と兼任講師 1 名が授業を担当したので、細かい授業進行の指示よりも、授業のねらいや各ワークの意図を指示することにより、学生に伝えることはしつかり伝え、且つ教員の独自性を発揮できるようにした。

4. 授業運営

1) クラス編成・担当教員

2 年生後期科目として、8 クラス開講し、151 名が履修した。学科科目に読み変えた学科は経済学科(49 名)、デザイン学科(35 名)であった。また、自由科目として履修し

た学生は 67 名であった。
授業は 6 名の教員が担当した。内訳は明星教育センター特任教員 5 名、兼任講師 1 名であった。

各クラスの人数と受講学生の学科、開講曜日時は表 2 参照。

【表 2】2014（平成 26）年度「自立と体験 3」履修者数・開講曜日時限

学科	H26 年度	開講曜日・時限（ ）はクラス数
経済学科	49 名	木曜 3 限 (3)
学科混合クラス	102 名	月曜 5 限 (1)、火曜 5 限 (1)、金曜 3 限 (2)、金曜 5 限 (1)
小 計	151 名	

5. 実施結果

1) 出席率・単位修得率

出席率の平均は、75.7%（昨年度 70.5%）となり昨年度よりも 5.2 ポイント上がった。
単位修得率は、82.1%（昨年度 84.1%）であった。出席率と単位修得率は、履修者数 151 名から授業を全て欠席している 11 名をのぞいた 140 名で計算している。

6. 第 1 回と第 15 回の学生アンケートからの考察

1) 授業評価（質問 1～3）

例年のことであるが、受講学生の受講後の授業評価はかなり高いものとなっている。
特に今年度は、質問 1 は 100% の学生が「よかった」と回答している。
学生のコメントでは、質問 1 では「自分の過去や大学生生活を振り返ることができた」、「学生生活や将来を具体的に考えられた」、「協力すること、コミュニケーション、チームワークを高められた」、「社会について考えることができ、社会に出ることを具体的に考えられた」、「人前で自分の考えを発表できるようになった」、「発表のとき、他のクラスと合同でやったのが良かった。緊張したが、良い経験になった」等、キャリア教育としての「自立と体験 3」の授業のねらいが、学生に身についたと言える。

【質問 1】あなたはこの授業に出席して、どのように思いましたか？

よかった (60%)、ややよかった (40%)、あまりよくなかった (0%)、よくなかった (0%)

【質問 2】あなたは授業にどのように取り組みましたか？

非常に積極的に取り組めた(24%)、積極的に取り組めた(55%)、まあまあ取り組めた(19%)、あまり積極的に取り組めなかった (2%)

【質問 3】この授業を後輩にも推薦しますか？

大いに勧めたい (43%)、勧めたい (53%)、あまり勧めたくない (4%)、勧めたくない (0%)

2) キャリア意識、仕事意識、職業意識（質問 4～6）

質問 4 については高い数字を維持しているが、質問 5 の社会貢献のイメージは昨年比 マイナス 19 ポイントとなっている。質問 6 の仕事を楽しくするイメージも微減である。
これから社会に出る学生の意識は、今の時点では社会に出て働くことよりも、就職活動の方に向いていると考えられる。ただ、質問 1～3 の学生コメントを見ても、社会についての関心や、働くことへの関心をこの授業を通してしている。

【質問 4】授業を通して自分の生き方を考えるきっかけができましたか？

とてもそう思う (24%)、そう思う (63%)、あまりそう思わない (10%)、全くそう思わない (3%)

【質問 5】働くことを通じて社会に貢献するイメージが作れましたか？

大変そう思う (14%)、そう思う (51%)、あまりそう思わない (14%)、全くそう思わない (1%)

【質問 6】社会にでて働くことの中に、楽しさを見つけられそうですか？

大変そう思う (19%)、そう思う (52%)、あまりそう思わない (26%)、全くそう思わない (3%)

3) 授業内容（質問 7以降）

質問 7、8 では授業の印象と身についたことについて聞いているが、学生の回答をまとめると、

① 「一分間スピーチ」、「個人プレゼンテーション」、「グループでの討議」、「自己表現力」

② 「問題解決手法」、「論理的思考」を身につけられたこと

③ 「グループワーク」、「チームワーク」

などが目立った所である。

このような意見をみると、「自立と体験 3」のねらいが多く の学生に体现している と見ることができ る。

質問 9 の授業への提案で、今後取り入れられそうだと考えたのは、1) 教室の外に飛び出す時間があったのもよかった、2) 他のクラスとの交流等があった。

【質問 7】「自立と体験 3」の授業の中で最も印象的だったことをあげてください

【質問 8】この授業の中でどのようなことが身についたと思いますか？

【質問 9】今後のためにこの授業への提案がありますか

7. 次年度への改善と課題

1) 改善点

① 学生からの評価も高かった「個人プレゼンテーション」をより充実させるために、早い回の授業から取り入れる。

② 問題解決演習の時間にゆとりをを持たせ、個人やグループで考える時間をしっかり確保する。

③ 可能な場合は、全体発表などを他のクラスと合同で行う。

2) 課題

① 社会に対する関心、市民として社会に出ていくことへの理解を高める。

② 継続の課題であるが、引き続き、またより効果の高い履修者増加の措置をとり、実際に履修者数を増やす。そのために、例えば、「自立と体験 4」の受講者と合同で企業見学ツアーを取り入れることを考えている。

以上

⑤ 自校教育事業報告

平成27年度 明星教育センター 自校教育事業報告

— 明星資料展示室と明星教育センター自校教育講座 —

1. 明星大学資料図書館 (15号館) 明星資料展示室展示

【明星資料展示室概要】

明星資料展示室は、明星大学創立50周年記念事業の一つである明星大学資料図書館 (15号館) の耐震工事に伴い、2014 (平成26) 年に開設した明星大学の教育・歴史を紹介する展示室である。この展示室では、明星大学創立以来の歴史をテーマ別に紹介する常設展示、明星大学にゆかりのある人物・学生生活やキャンパスの移り変わりなどを紹介する準企画展 (年1回展示替え)、同フロア (資料図書館2階) にある明星貴重書室・明星ギャラリーとの共通テーマのもと、明星大学と明星大学図書館所蔵の貴重書との関係を紹介する企画展示 (年数回展示替え) の3つ展示スペースからなる。

平成27年度は、準企画展として「発展期の明星大学」展や「星友祭50年の歴史」展、企画展として「明星大学とアメリカ展」・「明星大学とシェイクスピア・コレクション」展を開催した。以下、平成26年度の展示と合わせて、平成27年度の会期・展示内容 (テーマ) を報告する。

【明星資料展示室展示記録】

会期	内容 (テーマ)
平成26年10月26日～	【展示内容】 常設展「明星大学の歴史」 ■校歌・校章・校旗 ■明星大学の沿革 ■学部学科改組変遷図 ■明星大学の創設 ■創設期の明星大学の整備・拡大 ■教育研究活動の充実と学生の活動 ■学部・学科、大学院研究科・専攻の増設 ■附属教育研究機関の充実 ■通信教育部の充実 ■学生の活躍 ■キャンパスの再開発 ■自立と体験 ■周年記念事業
平成26年10月26日～ 平成27年10月2日	【展示内容】 準企画展「創設期を支えた人びと」

(※資料図書館の改修は、企画展開催のため、平成27年3月20日からの企画展のため、3月10日で終了。)	■落合盛吉 ■近藤一二 ■清家 正 ■銅直 勇 ■澤田忠信と学友会議長・委員たち ■アメリカンフットボール部、日米親善試合 ■男玉九十初代学長 80歳記念植樹 ■リージュ・ボブスレー部、札幌オリンピック出場 準企画展「資料図書館の改修」
平成26年10月27日～ 平成27年1月19日	【展示内容】 企画展「明星大学とシェイクスピア」 ■明星大学とシェイクスピア・コレクション ■明星資料からみたシェイクスピア ■明星大学シェイクスピアホール
平成27年3月20日～ 平成27年9月30日	企画展「明星大学とアメリカ」 ■明星大学とアメリカ連携大学との学術交流 ■明星大学創立20周年とアメリカ ■明星大学とアメリカ貴重書コレクション ■ウィルヘルム・ハイネ「ペリー来航」水彩原画と明星大学の 沖縄交流
平成27年10月13日～ 平成28年9月下旬	企画展「発展期の明星大学」 ■連携研究センターの開設 ■戦後教育史研究センターの開設 ■情報科学研究センターの開設 ■東京リカンセンセンターの開設 ■児玉記念図書館の建設 ■図書館記念講演 ■明星大学附属幼稚園の開設 ■田老キャンパスの開設
平成27年10月13日～ 平成28年3月5日	準企画展「星友祭50年の歴史」 ■「大学祭」－「星友祭 (日野校)」と「蒼星祭 (青梅校)」 ■星友祭 前夜祭 ■星友祭 体育祭 ■星友祭 文化祭

2. 明星教育センター自校教育講座

明星教育センターは、明星教育に関する研究・啓発・広報活動並びに明星教育の具現化及び学生の社会的・職業的・自立促進等に関する教育研究活動を実践するために、明星教育センター講座を平成27年度から開始した。自校教育事業でも明星教育センター自校教育講座として、全4回の講座を開講した。以下、開講日時内容を報告する。

【シンポジウム内容】

開催日	概要
平成27年6月30日 15:00～16:30	■テーマ：明星大学初期の教育—教師と学生との関係— ■講師：明星大学名誉教授 森下恭光氏 ■場所：明星大学本館4階508会議室 ■参加人数：15名 ■内容：明星大学創設から教員として明星教育に携わってきた名誉教授 森下恭光氏を迎え、明星大学創設期に活躍した12名（児玉九十先生、児玉三夫先生、落合盛吉先生、近藤一二先生、清家正先生、銅直勇先生、鈴木辰三郎先生、佐藤良一郎先生、児島威彦先生、佐藤輝夫先生、阿部三郎先生、飯田晃三先生）の教員を取りあげ、教員と学生との関係を中心に明星大学初期の教育について講演を行った。
平成27年11月1日 14:30～15:30	■テーマ：星友祭の思い出を語る ■講師：明星大学初代学友会運営委員長・明星大学名誉教授 澤田忠信氏 明星大学第3代学友会運営委員長 明星学苑 法人本部 特別顧問 宮崎 茂男氏 (司会) 明星大学理工学部教授・明星教育センター長 原田久志氏 ■場所：資料図書館（15号館）2階 明星資料展示室 準企画展スペース ■参加人数：25名 ■内容：資料図書館明星資料展示室 第4回企画展「星友祭50年の歴史」の運動企画として、両講師に星友祭創設期に関する話を伺った。トークショー形式で講師と参加

■星友祭 後夜祭（星夜祭） ■星友祭20周年記念 タイムカプセル ■星友祭テーマー覧	
企画展「明星大学とシェイクスピア・コレクション」 平成28年3月22日～ 平成28年10月2日	■明星大学とシェイクスピア・コレクションの貴重書 ■明星大学シェイクスピア・コレクションの貴重書 (Rare Books) について ■明星大学とフォルジャー・シェイクスピア図書館（アメリカ）との交流 ■明星大学のシェイクスピアに関する特別講演会 ■明星大学シェイクスピア・コレクションの公開 ■明星大学シェイクスピアホール

【平成27年展示の様子】



発展期の明星大学

	<p>者との会話を交えながら、大学創設期の学生の様子、学友会・星友祭の成り立ちや「星友祭」の名称の由来などの話を行った。同窓生の参加により、自校史資料の寄贈に関する情報も得られた。</p>
平成 27 年 11 月 26 日 10 : 45 ~ 12 : 10	<p>■テーマ：第 2 代学長 児玉三夫先生とシェイクスピア・コレクション収集について</p> <p>■講師：明星大学名誉教授 鯨井俊彦先生</p> <p>■場所：本館 4 階 406 会議室</p> <p>■参加人数：25 名</p> <p>■内容：平成 28 年 3 月開催のシェイクスピア展のヒアリングを兼ねて、名誉教授 鯨井俊彦氏をお迎え、第 2 代学長 児玉三夫先生と明星大学のシェイクスピア・コレクションについての講演を行った。内容としては、児玉三夫先生と明星大学貴重書コレクションについて、シェイクスピア貴重書展（銀座ミキモトでの開催など）、アメリカのフォルジャー・シェイクスピア図書館との交流、イギリスの古書業者について、明星大学シェイクスピアホール建設などがテーマとしてあげられた。</p>
2016 年 3 月 11 日 14:30 ~16:30	<p>■自校史研究と自校教育の実践について—なぜ今、自校教育が必要か—</p> <p>■講師：東京大学・立教大学・桜美林大学 名誉教授 寺崎 昌男氏</p> <p>■場所：明星大学 28 号館 204 教室（アカデミーホール）</p> <p>■内容：一般公開自校教育研究の第一人者である東京大学・立教大学・桜美林大学名誉教授寺崎昌男氏をお招きし、アドミッションポリシーやカリキュラムポリシーによって、自校教育がなぜ必要なのかを実践例を交えながら、講演を行う（3 月 4 日現在予定）。</p>

